

『 利根の河原 』

布施新町の北には利根川の広大な河原がある。柏市の弁天下と我孫子市の北新田にかけてその広さは10数ヘクタールに及ぶ。ふたつの堤防で仕切られ、葦原や運動場の地域と水田や畑の部分に分かれるが、その視野の広がり、見るものに開放感を与える。時に車で、時に自転車で、また徒歩で通ると季節の移ろい、気候の変化、動植物の生態や農業の営みなど興味深いものを見ることができる。

覚えている方も多いと思う。10年前の2005年12月末にコウノトリが一羽飛来した。農免道路を東から西へ車で走っている時、左手30メートルほど先の細い水路のわきに、人の背丈ほどの大きな鳥が立っているのを見かけた。鶴の一種かなと思ったが、頭が大きくずんぐりしている。動物園から逃げ出した大型の鳥だろうかと気になっていたところ、新聞にコウノトリ飛来の記事が載っていた。私が見たのはそのときだけだ。数日後近くまで行ってみたが、望遠レンズを構えた人や見物客がぞろぞろ集っており、ロープまで張られて近づけない。早々に退散した。翼を広げると2メートルにもなるそうで、飛ぶ姿が見たかった。ネットなどで調べてみると、この鳥は12月中旬まで岩手県大船渡にいた個体で北新田に3月まで滞在、その後愛知、広島で確認されたという。

特別天然記念物のコウノトリは兵庫県豊岡の人工繁殖や放鳥が有名だが、野生のコウノトリは日本ではすでに絶滅している。繁殖地のシベリアに2000羽近くいるらしいが絶滅危惧種に指定されている鳥だ。越冬地の中国南部に渡る途中日本にたまたま寄り道するのがいるらしい。豊岡のように定着とまではいかないだろうが、毎年渡りの途中に我孫子・柏にちょっと寄り道というふうにもなればいいのだがと夢想している。

これも10数年前のことだ。フクロウを何度か見かけた。大きな姿、頭が丸くでかい。昼日中、悠然と地上10メートルほどの高さをゆっくりとした羽ばたきで飛んでいた。広い河原をぐるぐる飛び回る光景は渉猟、遊弋と言う感じだったがどこかユーモラスでさえあった。夜行性ではなかったかと思って



調べてみると、コミミズクという種類で昼間河原や畑でネズミなどの餌を探す習性が特長らしい。一度、堤防の土手の草むらに降りたところを、3メートルほどの近くで遭遇したことがある。いぶし銀のような羽毛に覆われ、白くて大きな顔の真ん中に金色に光る大きな二つの眼。向こうも驚いたのだろう。5秒ほど凝視したあと、悠然と身を翻して羽ばたいて行った。それから3～4年にわたって姿を見たが、その後見かけたことはない。だがあの黄金の目の輝きは脳裏に焼きついている。

飛ぶ宝石と言われるカワセミはちよくちよくみかける。中央学院下の水門近くのコンクリートの岸に5、6羽列を作って止まっていた光景は見ものだった。

ある年、つがいのカワセミを別の水路沿いで見かけた。そんなに警戒もしていなかったのも、何日か観察した。ある日、いつものポイントにいてみると、カワセミ夫婦は見当たらない。付

近を捜すと、岸辺の枯れ草の中から茶色の鳥が鋭く飛び立ち頭上の小枝に止まった。目に黒線が横切っている。モズだ。いま飛び立ったところをしきりに伺っている。よく見ると青く光るプラスチックの破片のようなものが枯草のなかに見える。岸辺に下りて近づいて見て驚いた。正体はカワセミの死骸だった。腹を裂かれ、内臓をえぐられ、赤い血はまだ生々しい。翡翠、キングフィッシャー、青い閃光。素晴らしい名前を持つカワセミの無残な姿に北新田の厳しい生態系を思わざるをえなかった。翌日そのポイントにつがいの片割れと思しき一羽が止まっていた。ふとその頭上の木の枝に双眼鏡の視野を向けたところ、そこには例のモズがいるではないか。微動だにせず鳴き声もたてずに。そっとその場を離れたが、以後そこでカワセミの姿を見たことはない。

北新田の第一堤防の一部に越流堤というところがある。利根川が増水した際、決壊を防ぐために、川の水を逃がすためのものだ。越流堤を超えるほど増水することは10年に一度あるかないかだ。1985年の秋の氾濫のときは辺り一帯海のようになり、坂東太郎の凄まじさを目の当たりにしたものだ。稲の刈り入れ直前の惨事で、堤防上で農家の人泣いていたのが思い出される。当然生き物たちのダメージもいかにばかりか。

1994年か95年の台風で増水したときのことだ。越流堤を超えた水が引いたあと、プールのようにになっている堤の窪みにおびただしい数の巨大魚が群れているのを目撃した。鯉ではない、大陸原産の草魚か青魚とか言う魚だろう。体長1メートル前後の大物ばかりだ。深さ50センチ、長さ約150メートル、幅10メートルくらいのところに数100匹はいただろう。酸欠状態で水面に口をぱくぱくさせて苦しそうだった。柏にある新聞社に知らせたが、気のない対応だった。1週間後に見に行ったところ、すべて死んで腐敗が進み壮絶な光景が真夏の日差しの下に広がっていた。

利根川——日本で最も流域面積が広い川、日本で2番目に長い川。そのダイナミックさと生命のドラマに、ちょっと足を延ばしただけで触れられるのは、ここ布施新町の大きな利点といえよう。

平成27年1月 上村 正明